

みなへらまたで そう 通信 No3

みなへら通信 第3号 2013年1月15日

ゼロ・ウェイスト宣言のまち、水俣から
ムリなく 楽チンに みんなで ごみへらし
みなまたスタイル情報紙

編集：ゼロ・ウェイスト円卓会議
発行：水俣市環境モデル都市推進課

お宅の「生ごみ」、どうしていきいますか？

今回は「技あり！生ごみ減量術」と「ちょっぴりラクチンな生ごみの出し方」をご紹介します！！

技あり！生ごみ減量術

「まずは食べること」を心がけています。(南袋 赤木惇子さん)
台所から出る生ごみは、バケツにためて畑の畝の間に埋めます。畑で出たものは畑に返すんです。でも、その前に食べを心がけています。たとえば、カボチャの種は洗って乾かし、中の実をおやつに。唐辛子を収穫した後の葉も圧力鍋で佃煮にすれば、軸までやわらかくなるんです。自分の親たちがやっていたように丁寧に食に向き合っていきたいですね。



自家処理で収集日が気になりません

「庭のすみで堆肥に！」 (深川 高岡朱美さん)
東部地区は生ごみの収集がありません。庭の隅にブロックで枠を作り、その中で堆肥にします。やり方は簡単。台所で出た生ごみをすぐに入れて軽く土と混ぜるだけです。夏場にもおいません。猫とカラスが悩みでしたが、フェンス素材で蓋を付けることで問題解決しました。春と秋の2回、家庭菜園に苗を植えるときに蒔きますが、これは結構重労働。子どもたちの出番です。



生ごみは冷凍で収集日まで保管！

「生ごみは冷凍が楽ですよ」 (梅戸 道上ゆみさん)
はじめは「えっ！」でしたがやってみると楽チン。やり方は簡単。やさいの皮などは、三角コーナーなど使わず出たらすぐに直接生ごみ袋に入れて冷凍庫のすみへ。食べ残しも水分をよく切って袋へ。冷凍なので匂わず袋を開ける時のストレスなしで同じ袋に入れていきます。冷凍しても袋は破れません。ただし、欲張って詰め込むと凍った野菜の皮で袋が破けるのでご注意。



《生ごみを出すときにはここに注意！》



生ごみに入れないで！

 たばこの吸い殻  ラップ・ホイル類

 貝がら



手のひら以上の肉や魚の大きな骨
(大きいものは砕いて、小さくできないものは燃やすごみへ)

 醤油入れ  つまようじ

 ばらん

※最近分別のマナーが悪くなっているそうです。つまようじ・たばこの吸い殻・バラン・スプーンやフォークなど生ごみ以外のものが入ると堆肥を作る際の妨げになります。注意しましょう！

※ 生ごみ袋をレジ袋に入れて出さないで！





生ごみ収集のない地区のお悩みと試み



悩みは「イノシシが来るので、畑で処理できない」こと！ (久木野・村田佐代子さん)



久木野は生ごみの収集がないので、段ボールコンポストもやってみたんですが、忙しさで挫折してしまって。生ごみを燃やすごみに入れたくないんですが、畑に生ごみを入れるとイノシシが来て荒らすので入れられないんですよ。一人暮らしのお年寄りが多い地域でもあるので、簡単にできる生ごみ処理法があればいいですね。

「キエーロ」を試してみます！ (深川自治会長・松本達男さん)

今度、「キエーロ」という生ごみ処理容器を試してみることにになりました。コンポストもやってみたんですが、虫がわいたのでやめてしまったんです。「キエーロ」でうまく処理ができるようだったら、近所の高齢の方々の生ごみも引き受けられるかもしれないと思っています。



☆「キエーロ」とは・・・水俣市と同じくゼロ・ウェイストの志を持つ自治体、神奈川県葉山町で

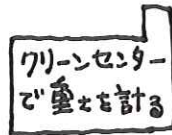


普及を進めている町民考案の生ごみ処理容器。土の上に置く「バクテリア de キエーロ」と庭がなくても使える「ベランダ de キエーロ」の2タイプがあり、生ごみを土とよく混ぜて埋めることで自然に分解される仕組み。水気を切る必要がなく、汁物や油も OK。ゼロ・ウェイスト円卓会議では生ごみの自家処理を進める一環として、試作&モニターすることにしました。3月の「みなへら」で、経過を報告する予定です。

市が回収する
生ごみのゆくえ



市の委託業者
が回収



芦北町古石にある
民間の施設で
堆肥化・販売

サラ玉などに使用

生ごみ-堆肥-農産物のじゃんかんがまこと目に見えたら、生ごみの分別のやりがいも増えるだけだよ

環境クリーンセンター 有村さんに聞きました シリーズ③

生ごみの分別・資源化を開始して10年、今ちょっと困ったことが起きています。それは、収集エリアからまだ生ごみを燃やすごみに混ぜて出されることがあること。

「生ごみを入れた方が高温になりすぎず焼却炉が傷まない」という話が昔ありましたが、普通の燃やすごみにも少しは水分が含まれているので生ごみを燃やす必要はないのです。90%が水分の生ごみを燃やすことは水を燃やすようなもので、多額の費用がかかってしまいます。生ごみ収集エリアの市街地は人口の約85%が集中し、生ごみ量も多いため、堆肥にして資源化を行っています。生ごみ分別のルールを守ってくださいね。そして、生ごみの収集をしていない地区でも、水気をしっかり切ったり自家処理などの減量への取り組みをぜひお願いします。



「みなへら通信」は、ごみの焼却・埋立に頼らないまちづくりの仕組みを市民・事業者・行政の協働でつくっていくゼロ・ウェイスト円卓会議が発行する情報紙です。円卓会議に参加する市民のボランティアでつくっています。ごみ減量に関心のある方を募集しています。 お問い合わせ：水俣市環境モデル都市推進課 TEL 61-1647